



今日の紙芝居は「不軽菩薩」というお話です。

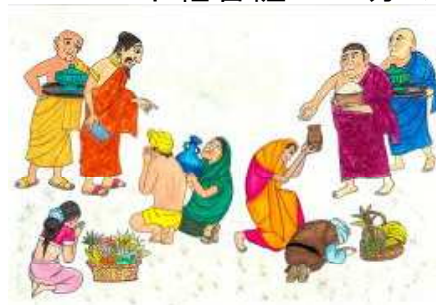
大聖人様は『法華取要抄』という御書に

「例えば不軽菩薩の話しのように、この御本尊様を信じない人には、南無妙法蓮華経のお題目を聞かせて、逆縁をむすんでいくことが大事である。そのお題目は、我が門弟のように御本尊様を信じた者は順縁となり、信じなくともそれが逆縁となつて必ず信心するようになる」とお示しになっています。

法華経の常不軽菩薩品というお経の中に、お釈迦様の過去世の修行の姿として、この不軽菩薩のお話しが出てきます。

相手を幸せに導いていく方法、救っていく方法として、具体的にどうすればいいのか、解りやすく教えてくれるお話しです。

しつかり聞いて下さいね。では始めます。



むかしむかし、いおんのうぶつ威音王仏という仏様がいらつしやいまして、その仏様は人々に正しい教えを説いていました。

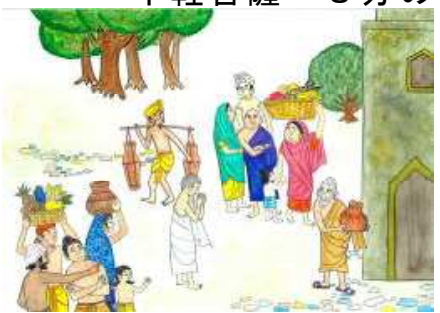
この仏様がお亡くなりになり、人々はしばらくの間この仏様の教えの通り、信仰をしておりました。

しかし、月日がたつにしたがつて、だんだんとその仏様の教えでは救われなくなつていき、わるい悪い威張つたお坊さんや、おれほど偉い者はいないと思つている信徒の人々が出てきました。

「こら、お前たち、もつとさし出しなさい。出せば出すほど幸せになれるぞ」

「わしは勲章をいっぱいもらつてゐるぞ。世界の平和のためにいっぱいお金が必要なのだ。そのためにお金を出しなさい」

といつて、人々をだましたり、バカにしたり、みだ乱れきつていました。このようなときに、たった一人正しい僧侶がおりました。その人の名前を「ふきょうぼさつ不軽菩薩」と言いました。



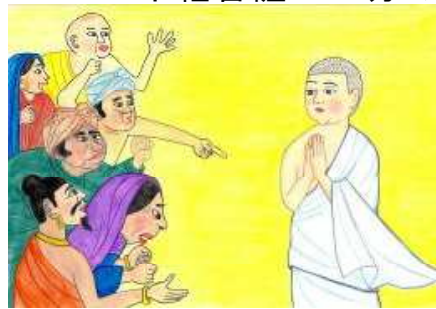
不軽菩薩は、人に会うと相手が男であれ、女であれ、僧侶であれ、普通の家の人であれ、大人であれ、子供であれ、

「私は、深くあなたたちを尊敬そんけいします。軽蔑けいべつしたり威張いばったり、バカにしたり軽んじたりしません。なぜなら、みなさんは菩薩ぼさつの道みちを修行しゆぎやうしたならば、必ず仏ほとけになることができ

る人だからです」と言いながら、全ての人に手を合わせて拝おがみしました。

この菩薩は、決して人を軽んじないということから、不軽菩薩と呼ばれました。

どのような人でも「法華経ほけきやう」を信じて、「法華経」を修行したならば、仏になることができます。だれにでも合掌礼拝がっしょうらいはいしたのです。



「あなたも修行をすれば仏になれます」
と言われたらどう思いますか？

仏様の教えを素直すなおに信じている人は、素直に聞くことができるでしょう。

しかし、仏様の教えを信じていない人は、色々な反応を示します。特に「おれほど偉い者はいない」と思っている人は、素直に聞けるはずもなく、かえって怒りおこだしてしまいうのです。

今日も不軽菩薩は

「あなたも修行したならば仏になれますよ」と言いながら、人々に手を合わせ拝み続けていました。

この不軽菩薩はお経を読んだり、学んだりしたことはありません。ただこの一言、「あなたも仏になれます」とだけ言い続けたのです。

すると、心の綺麗きれいでない素直に聞けない人は、わあわあさわぎ始めました。不軽菩薩の悪口を言い始めたのです。



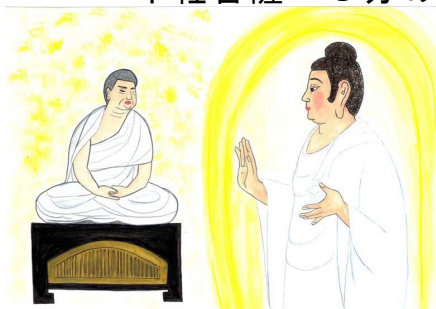
「お前のようなお経も読んだこともない、勉強をしたこともない者になにがわかる」

「お前に『仏になれる』と言われても、少しも嬉しくない。あっちへ行け」

とののしり、悪口を言い、更に、石を投げたり、棒でなぐりつけたりする者もありました。

しかし、どんなに悪口を言われようが、迫害されようが、この不軽菩薩は全く抵抗せずに、少しも怒ることなく、いつものようにすべての人々に向かって、

「みなさんは必ず仏になることができます」と手を合わせて拝みながら言い続けました。



しかし、だれにでも寿命じゅみょうがあるように、不
軽菩薩も寿命じゅみょう尽きて、臨終りんじゅうが近づいてきまし
た。

すると、威音王いおんのうぶつ仏の説かれた「法華経」の
声が聞こえてきました。

不軽菩薩は、その「法華経」の御説法ごせっぽうを聞
いて、眼めと耳みみと鼻はなと舌したと身からだと意こころの六根ろっこんをき
れいにする功德くどくを頂き、さらに、数え切れな
いほどの長い間、寿命を伸ばすことができま
した。

そこで、不軽菩薩はたくさんの人々へ、
「この法華経を信じ修行したら仏になれます」
と言い続けた、その「法華経」を説きました。



この不軽菩薩をバカにしたり、悪口を言ったり、迫害はくがいを加えた人達ひとたちは、数え切れないほど長い間、地獄じごくという苦しみの世界に落ち込みました。

「私が悪かった。ゆるしてくれ」

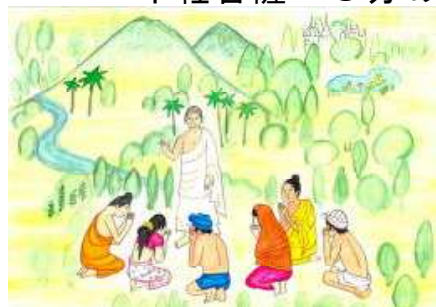
「俺が悪かった。助けてくれ」

「あついよ。さむいよ」

考えられないほどの苦しみの連続です。死んでも生まれ変わり、苦しみを受け続けるのです。

その間、仏様にも会えません。仏様の説いた正しい教えにも会えません。その教えを弘める僧侶にも会うこともできません。

幸せになるための大事な大事な「仏ぶつ・法ぽう・僧そう」の三宝様さんぼうさまにお会いすることができないのです。



しかし、永い永い苦しみから自分たちが犯おかした罪を消し終わって、やっと地獄の苦しみから出てくることができました。

そしてまた、不軽菩薩に会い、法華經の御説法を聞くことができ、不軽菩薩のとても立派なお姿に心から随したがい、みんな救われることができました。

このお話は、あらゆる人の命の中には、最高の宝である仏の命があることを教えると同じ時に、一度、悪口や迫害をした人が地獄に堕ち、生まれ変わって、今度はその教えを素直に聞いて、成仏していくことを「逆縁ぎやくえん」といひ、その縁で、全ての人が救われていくことを教えているのです。

大聖人様は、縁をむすぶことの大事さを教えています。それが折伏しやくふくです。この話のように、誰にでも「御本尊様を信じて南無妙法蓮華經と唱えれば、仏になれますよ。幸せになれますよ」と勇気ゆうきをもつて言えるようになっていきました。以上で終わります。